

平成二十四年三月二十三日提出  
質問第一五一号

## 大学の秋入学に関する質問主意書

提出者  
馳  
浩

## 大学の秋入学に関する質問主意書

東京大学が打ち出した、学部の新入学への移行に関する本格的な検討着手について、政府も概ね評価をする姿勢を見せていると承知しているが、大学の秋入学への移行により、大学の国際化への対応や、国際競争力の強化等のメリットが期待される一方、就職活動やギャップタームの期間の対応等について現実的な懸念も抱えていることから、政府の基本的な認識を確認したく以下の事項について質問する。

一 東京大学が秋入学への移行に関する検討を表明したことに、どのような意味があり、他の大学に如何なる影響を及ぼすものと認識しているか、見解を示されたい。

二 これまで、日本の大学は海外の大学と入学時期が異なることを理由に大学の国際化、国際競争力が遅れていると指摘されてきたが、世界標準の新入学に移行することにより、それらの問題が改善できると認識しているか、見解を示されたい。

三 二に関連して、秋入学に移行すればそれらが解決できるという単純な話ではなく、大学の授業内容ばかり、優秀な教授の存在や大学の環境面など、もっと根本的な原因があるのではないか、政府の見解は如何。

四 大学の秋入学が実現したことを想定して、秋入学に移行する大学と移行しない大学で分かれた場合、あらゆる面で混乱が生じるものと考えられるが、基本的には大学の入学時期は統一した方が望ましいとお考えか、政府の認識を示されたい。

五 海外の大学において、入学時期が分かれている国とその状況について示されたい。

六 大学の入学時期が分かれたままの状態になった場合、企業は採用活動を通年、または春・秋と二回に分けて行う必要がある、企業の負担、特に中小企業にとって重たい負担になると考えられるが、政府の認識は如何。

七 六に関連して、秋採用を普及させていくのであれば、まずは政府が率先して国家公務員の秋採用を実施し、民間企業に示していくことが必要ではないか、見解は如何。

八 秋入学が実現した場合、高校卒業から大学入学まで半年間のギャップタイムが生じることになり、学生がボランティア活動やインターン、海外研修などに取り組むことを期待されているが、その受け皿は十分に確保出来ると認識しているのか。大学の規模や地方の大学によっては、受け皿を用意できないところもあるのではないか、見解は如何。

九 八に関連して、そのような活動が出来るのは経済的に余裕のある家庭の学生だけで、大半の学生はギヤップチームの期間をアルバイト等に明け暮れてしまうような状況になることが懸念されるが、政府の認識は如何。

十 関連して、経済的に余裕のある家庭の学生だけが海外研修などの活動を行うことは経済力による教育格差を助長させることにならないか、見解は如何。

十一 家計への影響を考慮して、家計負担が増大しないよう、低所得家庭に対する奨学金の充実なども必要と考えるが、政府の認識は如何。

十二 秋入学への移行に関して、大学の入学時期だけを想定しているのか、いずれはそれに合わせ小中高でも秋入学に移行することが望ましいとの認識なのか、政府の将来的なビジョンについて示されたい。

右質問する。